

市民全員に愛される伝説のサッカーチームをつくる そのためにまず、我々が街のお役に立てることを

3月12日、一人の社会企業家が財団を訪れた。社会起業家OBの鬼頭弘茂さん。「ソーシャルビジネスグランプリ2011冬」で生越千尋さんとペアを組み、共感大賞を受賞した。起業テーマは「島根に伝説のサッカーチームをつくる」だった。そのプレゼンから1年を経て、彼らが島根県松江市の人たちと協力して立ち上げた、NPO運営によるサッカーチームがスタートする。チーム名は「松江シティFC」。

二人別々の夢がシンクロ

鬼頭さんと生越さんは、実は別々の起業を企画していた。スポーツで社会貢献したい鬼頭さんと、島根県出身で、日本一地味な県といわれる島根を活性化したい生越さん。グランプリも迫った2010年末に、社会起業大学の中村大作学長のアドバイスがきっかけで、共に社会起業を目指すことになったのだ。鬼頭さんは少年時代、病気が原因によ

る外見をからかわれたり、仲間はずれにされるつらい経験をしている。しかし、そこから救ってくれたのがサッカーだった。チームで一緒になって目標を目指す一体感。スポーツで社会に恩返ししたいという気持には、そんな原点がある。

伝説であるための条件

熱意は人を動かす。二人に共感した島根出身の岩田輝さんも加わり、鬼頭さんは2011年4月から島根に移り住ん

だ。島根No.1の社会人チームが手を上げてくれた。また、地元の人企業を紹介され、職を得たばかりか、新生チームのスポンサー第1号にもなってくれた。松江は中海と宍道湖に挟まれたとても美しい街で、松江城などの観光資源もある。にもかかわらず、地方独特のクルマ社会や高齢化などで、街の中心地でも人が少ないのだそうだ。市民に愛されるためには、まず自分た

ちが地元のために何ができるかを考えた。子どものサッカー教室は当然だ。チームのバスを高齢者の買物バスとして利用してもらおう。観光客に松江駅から松江城までの2・4kmを歩いてもらう仕掛けをつくらう。企業活性化、雇用増などを街を元気にする企画が進行中だ。FCは核ではあるがオンリーではない。

地元、選手、運営の一体感

松江シティFCは、5年以内のJFL昇格、そして2020年J2入りを目標に掲げる。4月14日、NPO法人化後初めての公式戦、中国地区リーグ開幕した。初戦は敗れたものの、翌日の第2戦で、強豪フアジアーノ岡山ネクストを相手に2・1の逆転勝利を収め、チームの雰囲気も良い。地元、選手、運営側の一体感を大切にする。伝説のサッカーチームが、その一歩を踏み出した。

なでしこジャパンの宮間あや選手の言葉が思い出される。「試合には勝ちたいけれど、ただ強いだけのチームに入って勝ちたいとは思わない。「一緒に戦いたい」と思える仲間がいるチームでチャンピオンを目指したい」。



■ご支援・お問い合わせなど
松江シティフットボールクラブ
電話：0852-67-2712
E-mail：hkidou@matsue-city.com
ホームページ：www.matsue-city.com

シリーズ

社会起業家

NPO松江シティスポーツクラブ

理事

鬼頭弘茂氏に聴く